

社会 6年A組	経済プロジェクト会議 ～松下幸之助の生き方と自分～	田中 いずみ
------------------------------	---	---------------

1. 単元設定の理由

(1) 本実践の主張点

☆社会科での響き合いはスパイダーマン（クモの巣）

社会科での学習を考えると、自分は“スパイダーマン”を連想する。つまりスパイダーマン（クモ）が学習対象、そして真ん中にあるスパイダーマンとたて糸でつながっているのがひとりひとりの子どもであり、よこ糸が子ども同士の学び合いである。学習対象とたて糸、よこ糸、この三つがつながってはじめて“響き合う学習”が成立するものだと思っている。37人のクラスだとスパイダーマンから出ている糸は37本。太い糸もあれば細くて切れそうな糸…など様々な37本の糸である。学習対象と出会ったばかりは細い糸であっても子どもたちが個々に学習対象と関わり、ひとり学習を積み重ね、学習対象と何度も何度も対話することによって、糸は太く紡がれていくのである。たて糸がしっかりしていないとよこ糸も弱くなる。それぞれのひとり学習がその子の自信につながってはじめて、友達の学習に興味を持ったり、自分の学習と比べたりできるようになり、よこ糸もたくさんはりめぐらせることができる。

また友達同士（よこ糸同士）の関わり方も重要である。友達の考えを聞く中で自分の考えに膨らみがでたり刺激になったりするのである。このようにクモの巣が、学習対象を中心にして、太いたて糸、たくさんよこ糸がはりめぐらされた丈夫なものになるに従い、クラスみんなのまなざしが互いに響き合う学習が成立していくのである。

☆なぜ松下幸之助なのか…

私も子どもたちも和歌山で生まれ、和歌山で育っている。和歌山市内には「松下会館」「松下体育館」「松下公園」といった松下幸之助にちなんだ建物がある。また、県立図書館の「和歌山県の偉人コーナー」には“松下幸之助”についての展示もある。しかし子どもたちにとっては“松下幸之助”という人については全くといっていいほどなじみの薄い人物である。そこであえて社会科の歴史学習の中で“松下幸之助”と“経済”を絡ませた学習をしようと考えた。“松下幸之助”を探ることを通して、“明治・大正・昭和”といった時代が少しずつ見えてくると思ったからである。いわゆる「三種の神器」の発明によって人々の暮らしも変化したこと、その頃の時代背景…なども、子どもたちに学習させたいと思っている。また、「ものづくりは人づくり」という考え方で人間を大切にされた松下幸之助の人となり、子どもたちと共に探ってみたいと考えこの単元を設定した。

☆今の自分から未来の自分へ

本単元でのねらいは、「松下幸之助が行ったことを捉えるなかで、松下幸之助の人となりを考えること」を中心としながら、昭和という時代背景、人々の暮らしぶりなども考え合わせた。また、会社の利益というような経済のしくみにも興味を持たせながら、学習を進めていきたいと思った。人となりを考えた場合、子どもひとりひとりが捉えた“松下幸之助”像は様々である。自分の追究した事柄を根拠にして松下幸之助の人となりを考えることにより、子どもたちは各自の

考えに確信を持っていく。自分の持つ松下幸之助像を、どのようにして自分の未来や生き方につなげていくのか、その思考の発展過程を大事に扱っていきたいと考えた。

(2) 教科提案とのかかわり

社会科のテーマは「全体学習につながるひとり学習の充実」である。ひとり学習を充実させるためには、やはり『学習対象を何にもってくるか』が大変重要になってくる。社会科は、「学習対象が命」と言っても過言ではない。学習対象の設定に当っては、子どもたちが多面的に幾通りもの見方で考えられる対象がベストである。やはり、学習対象に対して何度も何度も立ち止まったりしながら、また学習対象と対話をしながらの、ひとり学習をさせたいと考えた。そうした学習を進めることにより、子どもたちは自己の考えに確信をもち、さらなる追究の幅が広がり深まっていくという確信があった。

しかし、子どもたち全員のひとり学習が教師の支援なしに深まっていくかと言えば、必ずしもそうではない。ではそんな時、どのような手だてで子どもたちの学習過程と課題を見とり、支援し、評価していけばいいのだろうか。その具体的な手だてとして、“座席表”と“着目児”、この2つの要素に着目し、学習を進めた。

2. 単元目標

- ◎ 松下幸之助が残した業績や考え方が、現在の生活につながっていることに目を向け考え合う中で、未来の自分につなげて考えることができる。
- ・ 国民の努力によって我が国の経済が復興・発展したことや、国民生活が向上したことなどについて考えることができる。
- ・ 通貨や銀行の役割、企業の利益など経済の仕組みに、興味・関心をもつことができる。

3. 単元計画 (全 16 時間)

この単元では、「松下幸之助についての学習」と「経済についての学習」の2つを、並行して学習を進めていった。

松下幸之助についての学習

第1次

松下幸之助ってどんな人？

(1 時間)

人を育てる人

松下電器器具製作所創立

たくさんの物を発明

和歌山市名誉市民

(自分の興味のあることについてひとり調べをする)

～松下歴史館・松下電器工業・大阪起業家ミュージアム～ … 見学

第2次

自分のまとめたことをみんなに広めよう！

(2 時間)

表現方法は自由 (紙に書いて・劇にして・クイズ形式・本物を見せて) … 全体学習

☆自分の考える松下幸之助は？ 大正・昭和の時代背景は？ 庶民の暮らしは？

第3次

クラスの課題を決定しよう！

… 全体学習 (1 時間)

(全体課題についてひとり調べをする) →これが本時の課題になる … 家庭学習

はじめまして！経済学！

第4次

もしも〇〇がなかったら…を考えよう

…全体学習（6時間）

（経済に関係するいろいろな「もしも…」を考え合う）

- ・ もしもお金がなかったら…（通貨の目的・役割）
- ・ もしも遊園地の乗り物がタダだったら…（適正な価格）
- ・ もしも銀行がなかったら…（銀行の役割）
- ・ もしもローンがなかったら…（ローンの役割）
- ・ もしも株がなかったら…（株式会社の仕組み）
- ・ もしも会社がもうけばかり考えたら（利潤追求と国民生活）

松下幸之助についての学習

はじめまして！経済学！の学習

第5次

「会社を経営するために大事なことは何だろう」
～松下幸之助と自分と重ね合わせてみよう～

…全体学習（1時間）
（本時）

人としての生き方

昭和の時代背景

暮らしを支えるもの

経済のしくみ

第6次

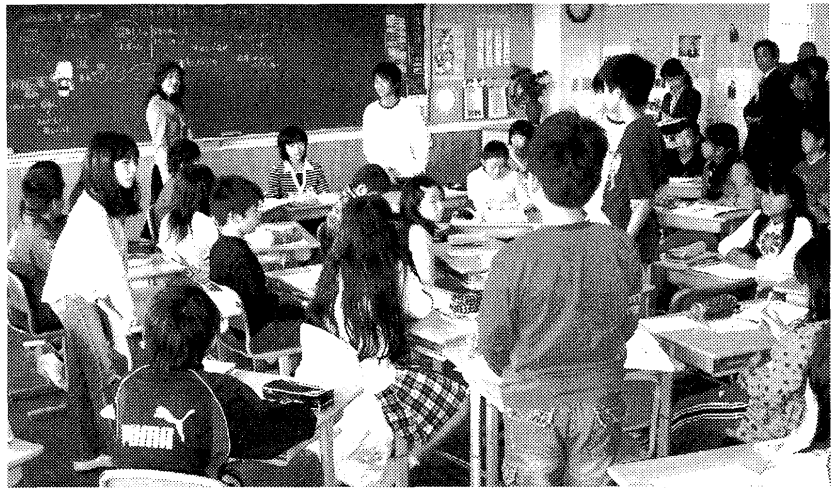
松下幸之助と自分 そして“未来”を考えよう！

…全体学習（1時間）

4. 単元の考察

（1）主張点とかかわって

今回の自分の授業では「人」と「経済」を結びつけた授業をしたいと思っていた。和歌山県の偉人「松下幸之助」を学習対象とすることで「人としての考え方・生き方」と「日本経済」この二つが絡み合っの単元構成ができると考えた。よく社会科で「人の苦勞・人の生きざま…」といった「人となり」イコール社会の学習というような授業がたくさんあるが私は以前からそれは少し違うのではないかと考えていた。その人を通して社会的事象をどう見せていくのか、子どもたちに人となりを自分にひきよせて考える力をつけてやる必要があると思っていた。自分の授業では「松下幸之助」よりも「経済」をどう絡ませていくのかがすごく難しかった。松下幸之助が発明した「三種の神器」を学習することで、1950年代後半～1960年代後半の高度経済成長の頃の日本の様子や



人々の暮らしといった昭和の時代背景も見えてくると思ったのである。そしてそれが、現在の日本経済について（株式・通貨の価値・適正価格・利潤追求…等々）の学習につながるものが「松下幸之助」を学習対象を通して見えてくる部分である。このように見えない部分をどう見せていくのかが支援であり、子どもの学習につながっていくと思う。そこをしっかりと学習させていく（道筋をつけてやる）ことが大事だと思った。

（１）互いのまなざしが響き合う姿は

子どもたちが互いにまなざしを響き合わせるというのはなかなか難しいことだと私は考えている。そのために子どもをどう見とるとかということが非常に大事になり、この単元でその子がどんな学習をすすめてきたのかを把握しておくことが基本である。そういった意味で「ひとり学習」をどう進めてきたのかを把握し、教師として「ひとり学習」にどんな形で関わってきたのかが重要である。本単元では「松下幸之助」については、ほぼすべて「ひとり学習」で行った。そして反対に「経済」の学習はすべて「全体学習」で行った。ひとり学習では、松下幸之助の考え方・生き方を調べている子、松下電器の発明した製品を調べている子、三種の神器の生まれた昭和時代の様子を調べている子…など等々であった。私は、各自が持っている調べた根拠をもとに自分の考えをどのように持たせていくのかが教師のみとりだと考えた。調べはしているけれど、そこから自分の考えがつかない子に対しては「一度、年表を作って製品と時代の流れを整理してみたらどうかな？」「松下幸之助はなぜ従業員を大事にしたのかな？」…など具体的に支援を行った。ひとりひとりが今どう動いているのかを把握するために、授業の最後に必ず「今していること・困っていること・考えていること」などを書かせ座席表にまとめ、子どもたちに提示した。

4. 成果と課題

本時での学習課題は「会社経営で大事なことは何だろう」ということでの話し合いになった。自分が社長になりきっての話し合いである。これはなかなかおもしろくて子どもたちなりにしっかりと「会社としてのもうけ」「経営力」などを中心に話し合っていた。「従業員を大事にする心」という部分での話し合いでは「松下幸之助」の人を育てることの大事さの学習が生きていたように思う。学習課題は必然性をもった課題であるとともに、その課題についていろいろな角度から考えることのできるもの、広がりのもてるもの、わかりやすいもの、が良いのではないかと考えていたので、本時の課題はそういった意味では納得のいく課題であった。

成果としては、本時での「会社を経営するために大事なことは何だろう」～松下幸之助と自分と重ね合わせてみよう～についての話し合いの中で、特に「経営するためには…」の部分ではひとりひとりが自分の考えを出し合っただけの活発な意見交換がみられた。そんな中で熱中のあまり話が少しそれてきた時があった。そんなとき K 君が「話を元に戻して考えよう」「わかりやすく 12 才の言葉になおして言うからね…」というような言い方をする場面があった。こういう時に自分は子どもたちの成長と響き合いを感じた。全員が響き合っていたとは決して言い難いが、その時々で関わり方を考えながら自分たちで最後まで授業を進めた子どもたちを誇らしく思った。やはり子どもは授業の中で育てていかなければならないと思った。研究授業をして良かった！

最後に、私は「経済」をもっともっと社会科の学習の中に取り入れていく必要があると思っている。そのためのカリキュラムをまずしっかりとたてることが一番の課題だと考えている。経済の学習を続けていくことがキャリア教育へとつながっていくのではないだろうか。